

上野西部地区住民自治協議会

教育・文化・芸術部会

探訪シリーズ NO. 17

《 人物編 》

日本で最初に「医師会」をつくったお医者さま

とみやま じゅんどう

富山 淳道 (1837～1887)

明治6（1873）年、現在の「伊賀医師会」に繋がる日本最初の医師会「癸酉<sup>きゆう</sup>医会」が、上野福居町の医師「富山淳道」の主唱によって設立されました。（発起人は他に4名 医師・薬剤師168名在籍）

淳道は伊賀で初めて種痘を行った、上柘植の医師（藩医）富山松齋の長男として生まれました。幼少より崇廣堂で学び、18歳から父も学んだ京都で西洋医学を学びました。文久2（1862）年25歳の時上柘植で開業し、当時伊賀地方で大流行した麻疹<sup>はしか</sup>の治療に当たりました。その後慶応2（1866）年上野福居町（現在の集議所向かい側）へ移転し、本町には種痘館を造りました。

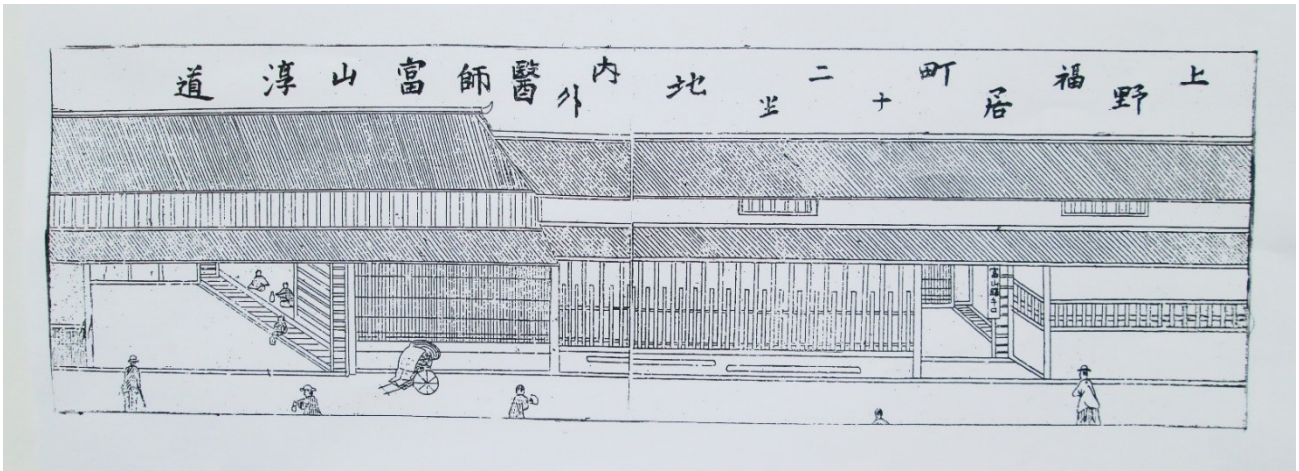
維新後 新政府は従来の漢方医学に代わり、西洋医学を主とした医学教育と近代医療制度の確立に着手しました。その結果日本の中央から遠く離れた伊賀の地では時流に乗り損ねるのではとの危機感から、淳道らを「医師会」発足へと駆り立てました。万人が平等に受けられる医療を目指し、医師の養成も行い、地域医療における先駆的役割を担いました。

多くの困難を克服し成し得たのには、淳道の西洋医学から得た科学的合理性と先見性は元より、自らの医院を「博愛堂」と称した事から郷里への想いと、何より人々への深い慈しみの心情が見受けられます。

参考資料：「伊賀市史」第3巻 伊賀市

「伊賀の医事史」阿山医師会（北出楯夫 編）

「図説 伊賀の歴史」郷土出版社（久保文武 筆）



富山氏自宅と医院（「上野名所・旧跡」明治17年商工獨案内記より）



元医院跡地、現在の様子



富山淳道 肖像画



「無鬼新説」  
明治8年 富山淳道著